

令和7年度 第2回沖縄県文化芸術振興審議会 議事概要

日時: 令和7年9月2日(火)14:00～15:30

場所: 沖縄県庁6階第2特別会議室

1. 参加者:

- ・沖縄県文化芸術振興審議会委員(委員名簿参照)
- ・沖縄県文化観光スポーツ部 文化スポーツ統括監、文化振興課(事務局)

2. 配付資料

- ・次 第
- ・資料1 沖縄県文化芸術振興基金 取組の紹介と寄附のご案内(未定稿)
- ・資料2 ART LAB OKINAWA 舞台脚本コンテスト配布チラシ

3 審議会次第

- ・開会
- ・文化スポーツ統括監あいさつ
- ・報告事項
 - (1) 沖縄県文化芸術振興基金の概要
 - (2) 基金を活用した県が実施する取組の紹介
(ART LAB OKINAWA 舞台脚本コンテスト)
- ・審議事項
基金を活用した文化芸術団体等に対する支援に係るテーマ
- ・閉会

4 会議経過・内容

開会にあたり、高宮城文化スポーツ統括監による挨拶があり、その後、沖縄県文化芸術振興審議会規則第3条第2項の規定に基づき、会長代理の進行により議事に入った。議事の内容については以下のとおり。

5 議事概要

島袋(秀)委員 沖縄県文化芸術振興基金の概要について

基金を活用した文化芸術団体に対する支援についてどういった文化芸術団体を想定しているのか。

県

ジャンルではなく団体の規模で考えている。任意団体、従業員が100人以下

の企業、JV 企業体、伝統文化系の団体を想定している。

島袋(常)委員 沖縄県文化芸術振興基金の概要について

首里城正殿の関連の取組は、陶芸組合でも関わりがあり、瓦を設置し終えた。

今回の基金の団体支援の対象は、ものづくりは含まれないのか。

県

ジャンルについては、基本的には文化芸術振興条例で記載のある文化芸術関連全てを想定している。芸能、芸術全般、工芸や食文化も含まれる。ただし、既存事業との差別化として、複数年にまたがる取組、既存事業では十分に対応できない取組である必要がある。

その他の細かい点は、公募の際に公募要領等に記載する。

安次富委員 沖縄県文化芸術振興基金の概要について

食文化の点でいうと、冊封使にふるまった料理を復元したいと思っていた。例えば琉球料理保存協会が他の団体と一緒に応募などもできるのか。

県

文化芸術団体が行うものについては可能。

篠原委員 沖縄県文化芸術振興基金の概要について

令和8年度の首里城正殿完成記念について、沖縄県としても一大イベントとして扱っていただけるということを嬉しく思う。首里城が復興するということで、県民の想いもあるが、観光の目玉にもなる。

文化団体等への補助は何団体を想定しているのか。

県

予算の範囲内で5団体程度を想定しているが、各団体の補助申請額によって増減はあると思う。寄附のペースによっても基金規模が変わると思うので、その状況も踏まえて実施していきたい。

川満委員 基金を活用した文化芸術団体等に対する支援に係るテーマについて

文化芸術団体等に対する支援に係るテーマについて、「首里城正殿完成」としてしているが、沖縄の文化芸術を社会全体で支えるためには対象を広くした方がいいのではないかな。

上原委員 沖縄県文化芸術振興基金の概要について

空手のミュージカルを創作し、世界へ発信したいと考えている。
沖縄には古くより「沖縄歌劇」という、誠に素晴らしい舞台芸術が存在しており、空手界には、ミュージカルの題材となり得る多くの物語が秘められている。
これまで空手界は、主としてハードの側面から沖縄観光に寄与してきたが、今後はソフトの側面、すなわち空手ミュージカルを通じ、沖縄観光に大きく貢献できるものと確信している。

崎山委員 基金を活用した文化芸術団体等に対する支援に係るテーマについて

文化芸術団体等に対する支援に係るテーマについて、「首里城正殿完成」として
いるが、支援のイメージが、伝統文化に固定化されていると思う。ジャンルとしては
伝統文化に限らず、様々な分野で考えた方がいい。
もう一点、沖縄県文化芸術振興会にも基金があると思うが、その基金との違いは
何か。

県

沖縄県文化芸術振興会の基金との違いは、振興会の基金は運用型、県の基金は取崩型という違いがある。運用形態の違いがどう影響するかというと、運用型は、運用利益で事業を実施するので、大きな額での取組は実施しづらい傾向があることに
対し、取崩型はある程度まとまった額を設定し、複数年度にまたがる事業を実施することが可能という点で違うのかなと考えている。

金城委員 基金を活用した文化芸術団体等に対する支援に係るテーマについて

文化芸術団体等に対する支援に係るテーマについて、「首里城正殿完成」として
いるが、テーマを絞ると限定的になってしまう。もっといろんな分野の取組への支援
ができるようにした方がいいと思う。
また、既にスタートしている委託事業は、人材育成という事だが、実演家だけではなく、裏方
の人材育成も必要といわれている。例えば、人材育成をしたいが、財政的に新たな人手を確保
することが難しい団体に補助をすることで、人材育成に寄与する等、そういう支援もお願いしたい。

遠藤委員 (ART LAB OKINAWA 舞台脚本コンテスト)、文化芸術団体等に対する支援に係るテーマについて

既にスタートしている委託事業(舞台脚本コンテスト)について、3年間のプロジェクトで
幾らの予算を立てているのか聞きたい。人材育成のどの部分に予算がついているのか、
人材育成される側の人件費がどの程度のものなのか。
多くの担い手は、複数の舞台に関わることでスキルを磨くものだが、3年間、この
プロジェクト1本で何が育つのか考える必要があると思う。
文化芸術団体等に対する支援に係るテーマについて、「首里城正殿完成」として

いるが、企画段階で芸能団体のみなさんと話し合った方がよかったのではないかなと思う。また、対象とする団体についても任意団体を想定しているようだが、間口が広いように聞こえるが、補助金を適切に扱えるのかという問題がある。補助金や事業執行にあたり、県職員だけでチェックするのは非常に大変だということを踏まえると、専門的な見地から補助する人材や機能があるべきではないかなと思う。

また、首里城復興課とのすみ分けがどの程度できているのか、文化振興という立場で取組む場合、しまくとぅば、琉球料理、伝統芸能等それぞれ単発の取組にするのではなく、横串を刺して、総合芸術としてお披露目するようなものができるかなと思う。

県

委託事業の3年間の総額は8千万くらいを想定している。人材育成については2年目以降、舞台制作に係るスタッフ、出演者も募集をかける。舞台制作の実践で場数を踏みながら県内5圏域での公演を実施する。3年目は海外公演を視野に入れている。

大工委員 民謡とポップスについて

民謡の立場から申し上げたい。令和9年度には「世界のウチナーンチュ大会」がある。世界のウチナーンチュから言われるのは、沖縄にせつかくきても、ポップスばかりで島唄が聞けず残念だということ。

沖縄県文化協会の「U-18島唄者コンテスト」についても、当初は非常によかったが、県事業の「しまくとぅば県民大会」の一枠として実施することで、随分変わってしまった。県事業は広告代理店が受託しており、集客のためにイベントの趣旨とは関係ないゲストが呼ばれたりしていて、如何なものかなと思う。

観客を集める必要があることは理解しているが、イベントにはストーリーがある。情熱のある子供さんたちが居るので、その熱意が次につながるような場にしてほしい。

6 審議結果

委員長より、文化芸術団体等に対する支援に係るテーマについて、事務局案の「首里城正殿完成」「首里城正殿完成後の活用」に加え「沖縄の文化振興に資する取組」を加えることが提案され、全会一致により決定された。